

2026年1月21日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヘ リ オ ス
代表者名 代表執行役社長 CEO 鍵 本 忠 尚
(コード番号: 4593 東証グロース)

培養上清向け細胞加工製造用施設稼働のお知らせ

当社は、当社が保有する再生医療等製品の生産に関する技術及びその生産の過程で産出される培養上清の活用を目指した研究・開発を推進しております。今後見込まれる培養上清の本格生産に対応するため、神戸バイオメディカル創造センター（BMA）内に細胞加工製造用施設（Cell Processing Center、以下「CPC」と言います。）の整備を進めてまいりましたが、この度、当該施設が本格稼働しましたのでお知らせいたします。

培養上清は、医薬品や化粧品の材料等、様々な分野での活用が期待されています。当社は、培養上清の活用に向けた研究や販売について複数の有力な取引先との関係構築や交渉を継続しています。これら用途に向け本 CPC を活用してまいります。

＜細胞加工製造用施設の概要＞

- (1) 所在地：
兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番5号
神戸バイオメディカル創造センター（BMA）内
- (2) 延床面積：約 80m²
- (3) 使用目的：
細胞培養上清液の製造



今後の見通し

本件による当社2026年12月期連結業績への影響はありません。今後、開示すべき事項

が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の患者さんにとって新たな治療法として期待されています。この分野では、製品開発・実用化への取り組みが広がり、将来的には大きな市場となることが見込まれています。ヘリオスは、iPS細胞（人工多能性幹細胞）などを用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011年に設立、2015年に株式上場（東証グロース：4593）し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。体性幹細胞再生医薬品分野では、健康な成人ドナー骨髄由来の体性幹細胞から成る独自の細胞製品であるHLCM051を使用した急性呼吸窮迫症候群（ARDS）や脳梗塞急性期および外傷の治験を実施しています。HLCM051は、強力な抗炎症作用と免疫調節作用を示すことが示されており、様々な病態への応用が可能です。後期臨床試験において数百人の患者さんで試験され、3D培養法で一貫して製造されており、複数の適応症において数百人の患者さんで安全性と有効性の両方が実証されています。ヘリオスは、脳梗塞急性期、ARDS、外傷に対し、HLCM051をグローバルに推進してまいります。iPSC再生医薬品分野では、免疫拒絶のリスクを低減する次世代iPS細胞であるユニバーサルドナーセル（UDC: Universal Donor Cell）を作製し、さらには、遺伝子編集技術により固形がんに対する殺傷能力を強化した次世代NK細胞（eNK®細胞）の開発を、株式会社Akatsuki Therapeuticsの主導で進めています。eNK®細胞は、動物モデルにおいて強固な抗腫瘍効果を実証しており、大量生産が可能な3Dバイオリアクターでの製造プロセスを実現しています。これらにより、がん免疫領域をはじめ、眼科領域、肝臓領域などで新規治療薬の開発に取り組んでいます。 <https://www.healios.co.jp>

本件に関するお問合せ先
IR広報部 ir@healios.jp